

45. 福 江 島

地 域 福江市・富江町・玉之浦町・三井楽町・岐宿町

交 通 空路 大村空港——福江空港
航路 九州商船 長崎—福江

地形図 福江・富江・三井楽・玉之浦 (1/50,000)

五島列島の地質をつくる岩層は、五島層群と総称される新第三紀層、最近いろいろと新しい見解が出されてきた福江溶結凝灰岩とその相当層、花こう岩・花こう斑岩・石英斑岩・ひん岩などの深成～半深成岩類、および流紋岩や粗粒玄武岩などの脈岩などである。またこの地域には、ごく新しい地質時代の玄武岩質火山活動によって形成された、きわめて保存のよい火山地形が見られるのは興味深い。これらの五島列島に分布する諸種の地質系統のほとんどが、福江島の中に集約されているとってよい程で、五島列島の地質を理解する上で、本島は重要な野外見学地といえることができよう。

福江島に分布する岩石・地層のうち、最も広く分布するものは五島層群とよばれる堆積岩類である。古くは中生層といわれたことがあったが、現在では新第三紀層に属するものと考えられている。これは、福江から奥浦へ向う途中の曲坂峠で発見された植物化石が、新第三紀中新世の台島型植物化石群に類似するという研究にもとづいている。福江島の五島層群から動物化石の確かなものは発見されていないが、奈留島の五島層群からは、北松炭田の野島層群大屋層に豊富に含まれているタニシやガマノセガイなどの、現在では大陸内部の淡水湖にすんでいる種類の貝化石が発見されている。

五島層群は、主として細～中粒砂岩とけつ岩の重なりあった地層であるが、まれに円れきが粗粒砂岩の中に集まっていることがある。火成岩の貫入のためホルンフェルス化したり、断層によって転位し



福江島地質概要図

1. 沖積層および洪積層 2. 噴石丘火口 3. 玄武岩類
 4. 福江溶結凝灰岩 5. 五島花こう岩類 6. 五島層群

たため、連続した地層の順序を決めることは難しい。しかし、一般的にいて、下部層は砂岩とけつ岩の厚い互層であり、上部層では砂岩が優勢となって、凝灰岩をひんばんにはさむ傾向が認められる。この状態は、北東部の戸岐湾南岸や、南河原海岸なんこうらでよく観察される。

板状の砂岩の上面に、しばしば漣痕の跡が見つかることがある。三井楽白良ヶ浜東端の県道のそばに露出した、急傾斜をした砂岩の地層面にはみごとな漣痕があらわれ、県の天然記念物に指定されて

いる。同じような地層面の上の連痕は、福江市六方海岸をはじめ、各所で見つかる。よく“さざなみの化石”といわれるが、水底の砂つぶの運動で生じたものであり、古生物の生態とは関係をもたないから、本当の意味の化石ではない。

五島層群の上部層に含まれる凝灰岩層は、植物化石が発見された曲坂峠によくあらわれている。また南河原の北の割ノ小島は、特色のある凝灰岩でできており、以前石材として採石されたことがある。岩質は、暗灰色の基質に、淡緑色の安山岩の岩片が斑紋状に入ったものである。これに類似した凝灰岩は、富江町の田尾と田ノ江の間に分布するが、おそらく同じ層準を示す地層と考えられる。

同じ凝灰岩でも、五島層群中のものとは異った性質をもつものに、福江溶結凝灰岩とよばれている岩体があり、岐宿町二里木場川下流域と、玉之浦町の中須川下流域に分布している。非常に堅い岩石で、新鮮な露頭では、一見火山岩のように見える。しかし、風化した面では、いろいろの種類の岩石の破片を取こんでいたり、ガラスや浮石が引のばされた状態が見られる。岐宿町河務のドンドン淵や、玉之浦町幾久山いつくやま～中須間は、福江溶結凝灰岩の好露出地である。

福江島中央部の山内盆地が、花こう質岩の浸食盆地である点は、対馬の内山盆地とよく似ている。盆地のまわりに分布する花こう岩の多くは、風化して“マサ”（真砂）になってもろいが、その中から大豆ほどの大きさの球状の石英を取出すことができる。同じような花こう岩は、福江市の奥浦や二里木場うとじゆく（雨渡宿）、富江の田尾にも分布するが、花こう斑岩とよんだ方がよい部分が多い。この岩体は、まわりにろう石鉱床（ダイアスポアを含む）を伴っており、五島鉱山と田尾鉱山で採掘されている。

福江島の地史の最後を飾っているのが、玄武岩質火山活動によって生じた火山の形成である。流出した玄武岩の溶岩流がひろがって、なだらかな溶岩台地をつくったものが、三井楽半島南部・岐宿町鰐川流域・鬼岳火山群の基底部・富江半島に分布し、富江の溶岩台地には井坑いあななどの溶岩トンネルがある。三井楽の京ノ岳は、規模は小

さいが、立派な楯状火山である。また、鬼岳で代表される噴石丘には、鬼岳火山群の鬼岳・火岳・箕岳・臼岳があり、富江溶岩台地の上に只狩山がある。いずれもストロンボリ式火山活動によって誕生した臼状火山で、山体をつくるスコリアの中には火山弾が含まれる。臼岳と箕岳の南側は、浸食を受けていくらかけずられ、噴石丘の内部構造があらわれている。(鎌田泰彦)

国立公園郵便切手



SAIKAI NATIONAL PARK

5円 大瀬崎

10円 九十九島

1956